

30回総会・記念講演会・記念の集い（報告）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025325

30 回総会・記念講演会・記念の集い (報告)

本会は 1964 年 6 月、会員数約 100 名により創設され、会員および役員各位の並々ならぬ努力と教育委員会をはじめとする関係諸機関・団体のご支援により着実に発展し、会員数約 400 名をもって記念すべき第 30 回総会を迎えることができた。ここに改めて関係者各位のご尽力に深く感謝したい。

* 第 30 回総会 (1993 年 6 月 13 日 15 時半～16 時半、ニッセイ静岡駅前ビル 2 F ホール)

伊藤会長の開会挨拶の後、高橋 豊東部支部長 (教育研修所) より申請のあった「愛鷹ローム層に挟在する縄紋先土器遺跡出土黒曜石の産地分析」に対し、選考委員会の審査結果が会長から報告され、研究奨励金 16 万円が贈呈された。続いて総会議事に移り、1992 年度活動報告・特別事業報告・会計報告を了承。1993 年度予算 (案)・事業計画案 (案)、役員・委員 (案) をそれぞれ原案通り承認後、「加藤芳朗元会長・岩橋徹前会長を名誉会員に推挙する件」、本会発足以来本部事務局において本会を支えて来られた「半田孝司会員 (現常葉短大) を表彰する件」がそれぞれ提案され、ともに異議なく承認された。最後に新役員を代表して、加藤美一副会長 (新居高校) の閉会挨拶があった。

* 記念講演会 (1993 年 6 月 13 日 14 時～15 時半、ニッセイ静岡駅前ビル 2 F ホール)

30 回という記念すべき節目の総会ということで、本会の生みの親、育ての親であった故鮫島輝彦会員 (元静岡大学理学部教授) の学友であり、「グローバルテクトニクス」(東京大学出版会 1987 年) の出版をはじめ、地球変動学の分野で多大な貢献をなされた杉村新先生 (元神戸大学理学部教授) をお招きし、総会に先立ち開催された。

杉村先生は、「今日は亡くなられた鮫島さんをしのび、彼の代わりに話したい」と前置きされ、「日本の地質学 100 年」(日本地質学会 1993 年) に寄稿された「島弧論」(大地形・重力異常・地殻構造・深部構造・深発地震・発震機構・熱流量・火山分布・火山岩・活構造・諸現象の帯状配列) の別刷 (B5 版 10 p) を参加者全員に配布されたうえ、日本列島をはじめとする島弧の特性 (海溝・深発地震帯・火山帯の並存)、特に火山活動・火山帯の特性についてスライド・OHP・ホワイトボードを併用して懇切丁寧に講演された。日本付近の大地形・重力・震源・火山など、さまざまな地学現象の地理的分布が極性をもつ帯状配列を示し、島弧～海溝系という概念に集約されること；島弧のマグマが島弧～海溝系と直角な極性方向に変化すること；火山の分布は海溝軸から 200 km 付近にある火山フロントより大陸側に限られること；などを「プレート・テクトニクス」誕生以前に指摘され、島弧論をリードされてきた先生のご講演を拝聴し、100 名を超えた参会者一同は深い感銘に包まれた。

* 記念の集い (1993 年 6 月 13 日 17 時～19 時、ニッセイ駅前ビル 2 F)

準備の手違いで開会が遅れた点を反省しているが、記念講演をお願いした杉村先生を筆頭に、静岡県教育委員会から杉田 豊高校教育課長・村木規量義務教育課長、加藤芳朗元会長・岩橋徹前会長ほか 3 名のご来賓、本会役員・会員 50 名、会計 58 名が参加された。

高橋 豊東部支部長・黒柳公治中部支部長・森 伸一西部支部長の司会により、開会挨拶を行った伊藤会長は、この集いを開くに至った経緯に触れ、本会への引き続く支援・協力を要請された。

司会による来賓紹介に続いて、杉村 新・杉田 豊・村木規量の各来賓から、30 年の歴史を刻んだ

本会への祝賀と激励の辞を頂いた。加藤芳朗元会長の発声で乾杯後、配布資料「静岡県地学会の歩み（抜粋）」を参照しつつ、野嶋宏二西部教育事務所長（元運営委員）が30年に亘る本会の歩みを3期に分けて紹介された。引き続き岩橋徹前会長はじめ、元運営委員および会員有志が本会との出会いや関わりについて言及され、今後いっそうの発展をと期待を表明された。

司会の適切な配慮により、様々な角度から会員有志の回顧・展望が語られるなか、記念の集いはメイン・イベント「半田孝司会員の表彰」を迎えた。本会が創設された1964年6月以来、本部事務局員・運営委員として多様な会務を誠実・的確・迅速に処理され、本会の円滑な運営と着実な発展に寄与された半田会員の多年に亘る多大な貢献に対し、伊藤会長から表彰状と金一封が贈られた。引き続き半田会員から「静岡県地学会との30年」と題するスピーチがあり、佐々倉航三初代会長（故人）の手による会誌「静岡地学」の字体決定の経緯など、本会創設当時のエピソードも含め、30年の歩みを回顧された。

半田会員の常葉短大への転出の経緯については、木宮一邦常葉短大学長（元運営委員）から詳しい事情説明があり、近く発足する「環境システム研究所」の活動等を通じ、本会との連携を深めていきたいとの意向表明があった。

「記念の集い」は半田会員・来賓を囲む全員参加の記念撮影でフィナーレを迎え、加藤美一副会長の新たな歩みへの決意をこめた閉会挨拶をもって散会した。



写真 杉村 新先生（中央右）・半田会員（中央左）を囲む記念スナップ